

みやぎの環境

特集

宮城県・鶯沢町エコタウンプラン

No.

20



2000

3



ちよつとの違いが大間違い

蔵王の歌詩人

熊谷

金治

自宅居間の正面には、もうこの辺りできえ
少なくなつた雑木林が広がっています。楓・ク

ヌギ・山桜・栗・朴の木・銀杏・唐松等々。

様々な木々たちが初夏ともなると木洩れ陽も落

とさぬ程にうっそうと生い茂り、はじつこの

木々は横へ横へと光を求めて身をくねらせ毎日

ながめていても飽きない風景です。

「この林を誰が見るかできつと想いが違う

んだろうな」と、ふと考えました。大工さんか

ら見れば真直ぐな木に価値を認め、曲がりくね

った木は切つて別の木を植えたくなる。画家や

写真家が見れば逆にそのより個性的な木々ほど

魅力を感じることでしよう。

「背に腹は代えられない。」という言葉がま

かり通つて来ました。その言葉の威嚇には政治

も教育も文化も、全てが従わざるをえませんが

した。経済が政治家を選出しました。いったい

人間はどこまで腹を満たすことができたなら背
を考え始められるのでしょうか。

大変な読み違いをして来たように思います。

「背に腹は」ですから背のほうが腹より大切と

教えてくれていたものを、「背で腹は」と解釈

を曲げて来たのではなかったでしょうか。

「平等」という言葉も「彼にふさわしさを

与えよ」という意味を「ひとしき」と読み、

「時は金(きん)なり」を「時は金(かね)な

り」と解釈し、深刻な顔をするのが真剣で、何

でも節約すればと儉約を失い、便利・快適な文

明こそが幸せだと幸運な「幸せ」だけを求め、

本ものの「仕合わせ」を見つめようとしない我

のかたまりの人間どもに、それこそその名のと

おり、自然は「みずから・しかるべし」と教え

続けてくれる事でしょう。環境という写し鏡を

もつて…。

CONTENTS

ちよつとの違いが大間違い	熊谷金治… 2
特集	
循環型社会システムの構築を目指して	
宮城県・鶯沢町エコタウンプラン	… 3
（かん）	
豆沢川の虫喰い岩	柴崎徹… 8
エコライフ	
自然体験学習と人材育成をめざして	
INPO法人「ひたかみ水の里」の活動	… 10
INFORMATION	
NEWS・伝言板	… 12
紹介・環境情報センターから	… 13
見る・聴く・ふれる	
南方町平貝の清水	… 14
まちなみ	
電柱隊のつばやき―古川市―	近江隆… 15

みやぎの環境 第20号



スマイレ

表紙写真：多賀城市 加瀬沼公園

循環型社会システムの構築を目指して

宮城県・鶯沢町エコタウンプラン



大量生産・大量輸送・大量消費・大量廃棄という二十世紀型の経済社会システムの限界が明らかになりつつある現在、環境に与える負荷が少なく持続的な発展が可能な社会システムづくりが急がれています。

容器包装リサイクル法や家電リサイクル法などのリサイクル関連法制度が整備され、さらには「循環型社会基本法」の検討が進められています。

このような状況の中で、昨年十一月、「宮城県・鶯沢町エコタウンプラン」が国の承認を受けました。今回は県内で始まったこの環境に調和した新しい町づくりについて紹介したいと思います。

宮城県・鶯沢町エコタウンプラン

はじめに

平成六年に国連大学は「ゼロ・エミッション構想」を提唱しました。これは、ある産業から出るすべての廃棄物を新たに他の分野の原料として活用することにより、あらゆる廃棄物を最終的にゼロにすることを目指す構想です。ある産業に投入される生産要素はすべて最終的な製品として活用されるか、または他の産業の原料となり、究極的に廃棄物は発生しない生産システムを目指すもので、これまでの大量生産システムとは全く異なる「循環型」の新しい生産システムの創出を目指すものです。

平成九年、通商産業省はこのゼロ・エミッション構想を地域の環境調和型経済社会形成のための基本構想として位置付け、先進的な環境調和型町づくりに取り組み自治体の支援を目的として「エコタウン事業」を創設しました。具体的には、地方自治体が策定した「エコタウンプラン（環境と調和した町づくり計画）」が国の承認を受けた場合に、プランに基づき実施する事業に対して、国の総合的・多面的な支援を受けることが出来るのです。

全国では、平成九年度に長野県飯田市、川崎市、北九州市、岐阜県の

四ヶ所が、十年度には福岡県大牟田市、札幌市、千葉県の三ヶ所が計画の承認を受けています。

21世紀型環境産業社会

Resource→Product→Use→Recycle
 低環境負荷 → 低環境負荷 → マテリアルサイクル
 型生産 型消費 サーマルサイクル

環境負荷の低減・資源循環

20世紀型産業社会

Waste←Use←Product←Resource
 大量廃棄←大量消費←大量輸送←大量生産

環境負荷の増大・資源の枯渇

県内の取り組み

鶯沢町では、「地球と共生する鶯沢町」を町づくりの目標に定め、環境産業と地域内産業そして自然環境が共生し、持続可能な発展を期待できる、環境調和型の地域社会の形成を目指した施策を展開してきました。

平成八年度からは、通商産業省が提唱した「リサイクル・マインパーク」構想において、鉱山技術を活用した地域の発展の可能性と新たな地域づくりに向けての調査検討を行いました。

この構想を契機に、住民・企業・行政がパートナーシップを構築し、鉱山の製錬技術を活用した家電リサイクルの事業化と、これを核とした環境の町づくり構想が提案され、それがエコタウン構想へと結びつきました。

地域の現状と構想の背景

鶯沢町は、鉱業と農業を基幹産業として発展してきた町です。約千二百年前に発見された細倉鉱山は、日本有数の鉛、亜鉛の鉱山として長い間同町の経済を支えてきました。昭和六十二年の閉山に伴い、町の経済構造は大きく変化しました。



人口も最盛期（昭和三十年代）の一万三千人から現在の三千四百人まで減少し、過疎化、高齢化が深刻になっており、新たな地域振興策を模索しています。また、鉱山の恩恵を受けた反面、鉱害も経験しており、環境に対する住民の意識がきわめて高い町でもあります。

現在は、水稲を中心とした農業と製造業を中心とした工業が主要産業となっていることから、一次、二次産業を主体とした産業振興に積極的に取り組んでいきます。

細倉鉱山の廃坑道を利用したテーマパーク「細倉マインパーク」等による観光事業や地域産業おこし、製錬施設、製錬技術を活用した廃バッテリーからの鉛リサイクル事業で成果を上げていきます。

プランの基本理念と事業の概要

・基本理念

『小さな町から広がる環境調和型地域づくり』

『宮城県・鶯沢町エコタウンプラン』は、二十一世紀にふさわしい持続的発展が可能な「環境調和型社会の形成」に向けて鶯沢町のポテンシャルを活かした「環境への負荷の少ない循環型社会システム構築」と「健全な環境産業育成のための社会基盤づくり」を推進することにより、環境と調和した町（エコタウン）を創造し、さらに同町を発信基地としてエコタウンの地域を大崎・栗原広域圏へ拡大し、その成果を全県、全国へ波及して行こうとするものです。本プランの具体的な事業はハード事業とソフト事業から構成され、また時間軸に沿ってフェーズ一からフェーズ三までの三つの段階から構成されています。

フェーズ一では鶯沢町をエリアとし「家電リサイクル工場を中核とした環境調和型地域モデルの形成」を目標としています。フェーズ二においては、フェーズ一の成果をベースに大崎・栗原広域圏のエリアにおいて「環境調和型地域モデルの広域展開と地域産業への波及」を目指すものであり、フェーズ三においては広域圏における「新たな環境調和型産業の創造と地域からの発信」をねらいとするものです。

このように、来たるべきリサイクル社会のモデルとなる地域として鶯沢町（フェーズ一）を基本エリアに設定し、同町の持つ高いポテンシャルを活かしながら、圏域（フェーズ二、三）へとエコタウンのエリアを

『宮城県・鶯沢町エコタウンプラン』の概要

ハード事業	ソフト事業
《フェーズ1》H11～ 家電リサイクル工場を中核とした環境調和型地域モデルの形成	
<p>公開型家電リサイクル工場</p> <p>リサイクル情報センター</p> <p>リサイクル工房</p>	<p>地域住民・行政・企業が一体となったモデル地域づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●鶯沢町環境調和型地域活性化推進委員会の開催 ●「宮城モデル」家電リサイクル推進調整会議の開催 ●環境教育と学習活動推進 ●リサイクル・環境技術情報データベースの構築と発信 ●容器包装リサイクルモデルコミュニティ形成 ●全世帯コンポスト化による生ごみリサイクルシステム構築 ●ISO14001の認証取得
《フェーズ2》H13～ 環境調和型地域モデルの広域展開と地域産業への波及	
<p>一般廃棄物広域・高度処理施設</p> <p>エネルギーリサイクル施設</p>	<p>エコタウン理念の広域圏への拡大・定着を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域内ゼロ・エミッション指向企業ネットワーク構築 ●環境調和型地域形成広域圏パートナーシップ委員会設置 ●容器包装リサイクルモデルコミュニティの広域展開 ●「自然と環境」をキーワードにした広域周遊観光ルート設定
《フェーズ3》H15～ 新たな環境調和産業の創造と地域からの発信	
<p>環境・リサイクル技術研究所</p> <p>ゼロ・エミッション型工業団地</p>	<p>地域づくりの成果や実績を全国に発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ●エコタウン地域連携全国大会の開催 ●環境・リサイクル関係学会、国際会議誘致 ●環境調和型地域づくりリーダー養成

着実に拡大していくこととしており、さらに、各フェーズの実現過程において創出された具体的成果や、有効性が明らかになったシステムは、随時宮城県全域さらに東北地方全域へと普及拡大を目指していくものです。

いわば人口三千四百人の小さな町全体を環境調和型地域づくりの舞台とし、最終的には全県・全国のモデルたらしめとする大きな挑戦なのです。

・事業の概要

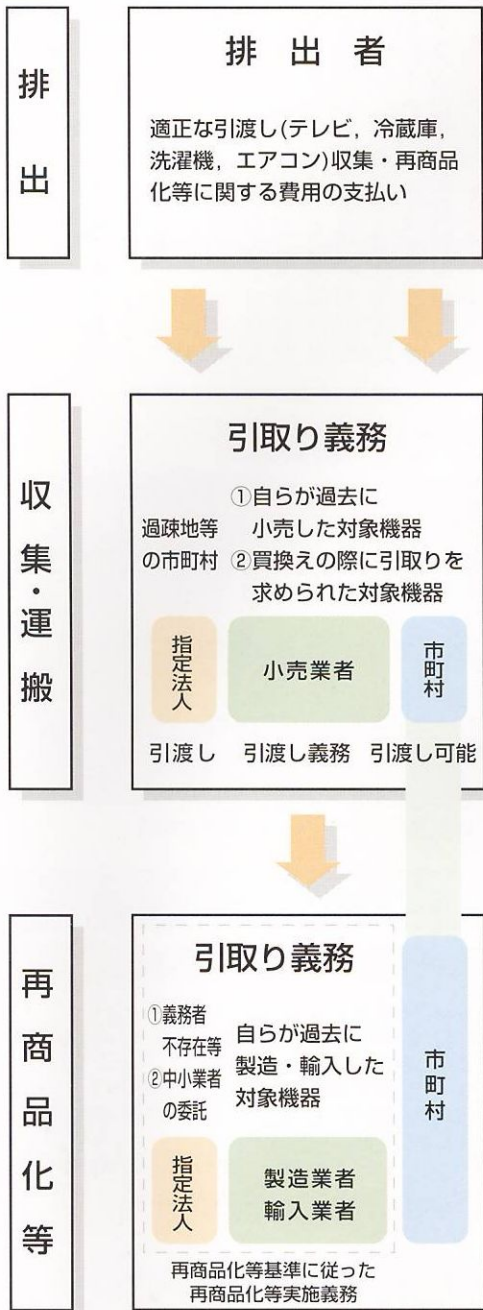
「家電リサイクル工場を中核とした環境調和型地域モデルの形成」を目標とするフェーズ一のハード事業のメインプロジェクトとして、細倉製錬所の技術、施設、立地等の資源を活用した「家電リサイクル工場」を設置し、家電リサイクル法に基づく使用済み家電四品目（テレビ、冷蔵庫、洗濯機、エアコン）等のリサイクルを実施します。

併せて、環境情報の集積・発信を行う「リサイクル情報センター」や環境教育の実験の場としての「リサイクル工房」を整備し、ソフト事業の展開と有機的に連携したエコタウンプラン推進の基地として位置付けることとしています。

このフェーズのソフト事業としては、「環境教育と学習活動の推進」や「リサイクル・環境技術情報データベースの構築と発信」など、ハード事業の成果を活用して行う各種事業と「容器包装リサイクルモデルコミュニティの形成」や「全世帯コンポスト化による生ごみリサイクルシステム構築」などエコタウンの理念を実践していく事業を中心に構成されています。

フェーズ二のハード事業として

【参考】家電リサイクル法(特定家庭用機器再商品化法)の概要

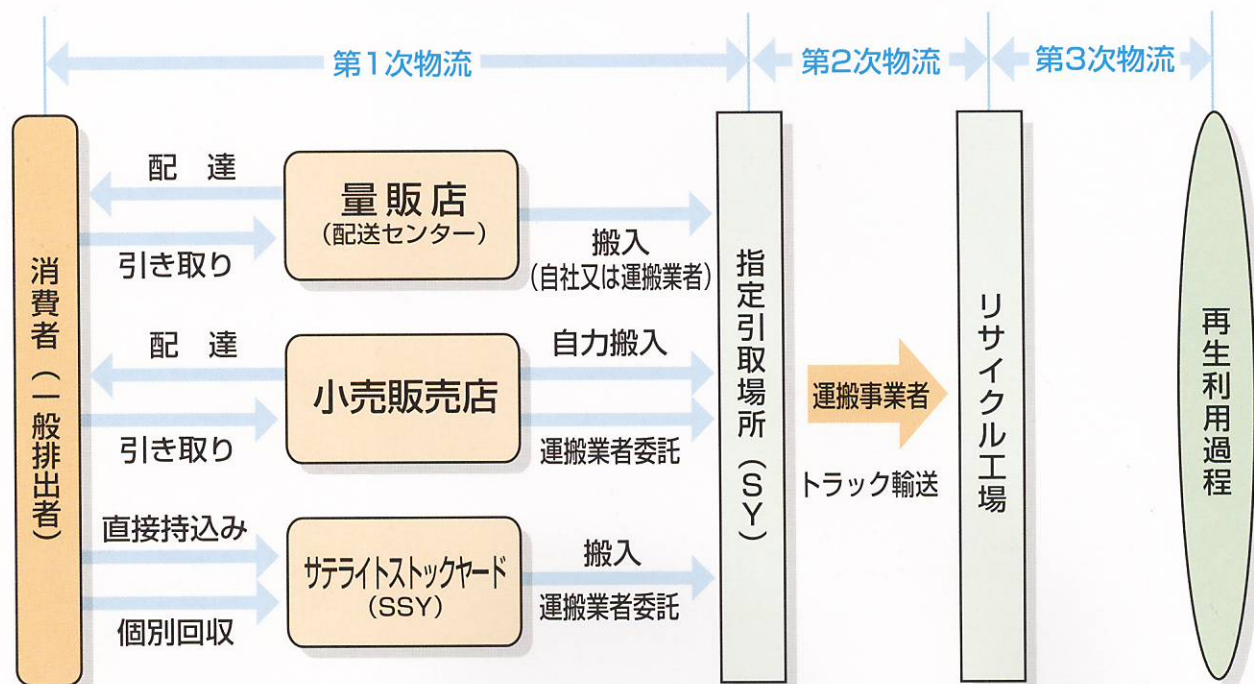


は、前フェーズで鶯沢町を主体として行うゼロ・エミッションの取り組みを地域圏へ展開する具体的対象として『一般廃棄物広域・高度処理施設』を整備するとともに、『サーマルリサイクルの観点から』エネルギーリサイクル施設』を計画しており、ソフト事業としては、フェーズ一の成果の地域圏への拡大を進めるための事業と地域産業への波及の観点から『企業ネットワークの構築』や『広域周遊型観光ルートの設定』などの事業で構成されています。さらに、フェーズ三においてはそれまでの成果を踏まえて『環境・リサイクル技術研究所』と『ゼロ・エミッション型工業団地』を整備し、具体的研究成果や産業におけるゼ

ロ・エミッションの取り組みを全県・全国へ発信していこうとするものです。
家電リサイクル事業の概要
 ・家電リサイクル工場
 使用済み家電のリサイクル事業については「リサイクルメインバンク構想」の検討過程で三菱マテリアル(株)からの提案を住民・企業・行政が一体となって検討を重ね具体化してきたものです。
 工場の事業主体は、三菱マテリアル(株)が中心となり家電メーカー数社が出資する新会社「東日本リサイクルシステムズ(株)」で、事業内容としては、家電リサイクル

法に基づく家電四品目(テレビ、冷蔵庫、洗濯機、エアコン)とOA機器類の再商品化を行うもので、処理能力としては年間十五万台を想定しています。平成十一年度に着工し、平成十三年四月の家電リサイクル法施行時には本格操業が可能となるよう準備を進めています。
 この工場はこれまでの検討結果を踏まえて、「情報の公開」と「地域コンセンサスの重視」をうたっており、「公開型」としている点に特徴があります。
 ・宮城モデル家電リサイクルシステム
 このように家電リサイクル法の施行に向けてリサイクル工場については相当程度具体化が進んでいる状況にありますが、使用済み家電の排出場所である消費者(家庭)からリサイクル工場までの物流部分、特に、メーカーが設置する指定引き取り場所までの物流部分についてはメーカーや小売業者での検討状況についての具体的な情報がなく、どのような仕組みが作られるのか不明確な状況にあります。
 県では、家電リサイクル法の円滑な定着と適正処理の確保の観点から、この物流部分に大きな関心を持ち、県内で発生する使用済み家電の全量収集・リサイクルを目指すシステムづくりのたき台として「宮城モデル家電リサイクルシステム」を家電メーカー等に対して提案してきました。
 このシステムでは、今後、指定引き取り場所などの物流体制が明確になっていく中で、それらとの整合を図りながら宮城モデルの検討を進める必要があります。

宮城モデル家電リサイクルフロー図



家電リサイクル推進調整会議

期待される効果

・一般廃棄物の減量化、資源化、適正処理における効果

一般廃棄物の分別収集の取り組みについては、大崎広域圏が県内でも相当進んだ取り組みを行っている反面、鶯沢町の属する栗原広域圏の取り組みはまだ緒にたばかりで、収集方法についても統一されていない実態にあります。

こうした環境下において、鶯沢町がリーディングケースとして「容器包装リサイクルモデルコミュニティ」や「生ごみリサイクルシステム」等の具体的活動を行うことにより、平成十三年度までに栗原地域の分別収集、資源化の体制を整備するとともに、収集方法等の統一を図ることとしており、広域圏の分別収集推進に大きな弾みをつけることができます。

また、一般廃棄物の処理については「宮城県ごみ処理広域化計画」(平成十一年三月策定)に基づき、大崎・栗原広域圏にある五つの焼却施設を一つに集約することとしており、これを「一般廃棄物広域・高度処理施設」としてフェーズ2の中核施設として位置づけることにより、広域圏におけるエコタウン形成のシンボルの存在として活用できます。

さらに「エネルギーリサイクル」と併せて、廃熱利用、発電等エネルギーの有効活用、溶融等による焼却残渣の減量化、無害化に大きな効果が期待できます。

・エネルギーの有効利用
エネルギーの有効利用では、前段の一般廃棄物広域・高度処理施設での廃熱の熱供給、発電のほか「家電

リサイクル工場」から発生する廃プラスチック等、現段階で原材料に適さない物資について「エネルギーリサイクル施設」により熱回収を含めた総合的なリサイクルの推進が可能となります。

・その他の社会的効果

「住民とのパートナーシップ」「情報公開・技術開発」「環境教育」などのソフト事業を展開することにより、廃棄物の発生抑制、リサイクル推進のモデル地域として県内外に對する大きな普及啓発効果が期待できます。

さらに、最大集客年間二十五万人の実績を持つ細倉マインパークとの連携により、県内外への情報発信が効率的に実現できます。





NATURE

豆沢川の虫喰い岩

(財)宮城県伊豆沼・内沼
環境保全財団研究室長

柴崎 徹

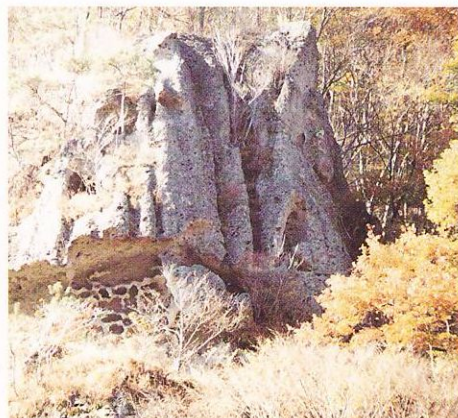
(文と写真)



雲形浸食の見える虫喰い岩



対岸の虫喰い岩



豆沢川の虫喰い岩





広瀬川の支流のひとつに青下川がある。青下川は、作並の鎌倉山の方に伸びていくが、一方は北に向って豆沢川になる。豆沢川は文字通り小さな川で、その源頭は定義如来さんの西側あたりになる。

豆沢川一带はやわらかな凝灰岩層で覆われている。軽石状の多孔質の岩で、地形の峻しいところは、その凝灰岩が地表に露出して風化が加わり、異容なかたちの小岩峰をつくっている。水蝕

によって贅のできた岩、キノコ状の岩、空隙が発達して蜂の巣のようになった岩、ニードル状の尖った岩など、ひとつひとつが面白いモニュメントをなしている。いわば、やわらかではあるが脆くない性質によって、風化というとてもない歳月の力を、自分の姿に刻み込んだ岩、それがこれらの虫喰い岩であろう。

支尾根に突き出た岩峰によじ登ると、眼下に豆沢川の谷がひらけ、秋の

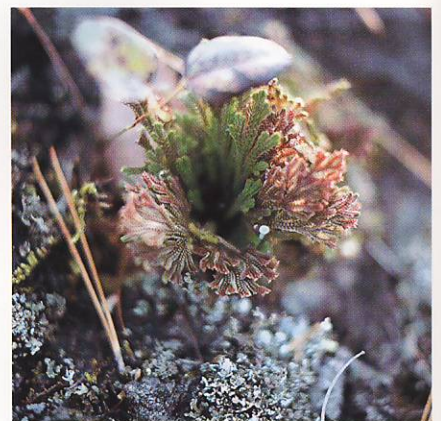
澄んだ大気の中で、それぞれの岩が周りの樹々の紅葉としきりに競っていた。

豆沢川の虫喰い岩は、往來のさかな定義街道をそれた、ほとんど目立たないところにある。しかし、小さいながらも楽しい岩峰をちりばめたこの地域は、私にとつては魅力のつきない場所のひとつである。

ニードル：針のように尖った岩山



ヤマモミジ



岩上のイワヒバ

● 交通案内 ●

仙台市内から車で国道四八号線を作並方面へ。能ヶ根橋で右折し、青下貯水池まで約三〇分。さらに豆沢川に沿って徒歩三〇分。

自然体験学習と人材育成をめざして

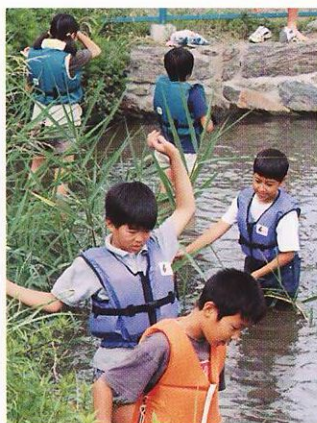
「NPO法人「ひたかみ水の里」の活動」
 ひたかみ水の里代表 新井 ひと 偉夫



石巻市は、宮城県の北東部に位置し、太平洋に面しています。市の南東部に位置するリアス式海岸の牡鹿半島は、南三陸金華山国定公園や硯上山万石浦県立自然公園に指定されるなど豊かな自然を有しています。市内のほぼ中央を流れるのが旧北上川で、以前は船運が盛んで、人々の交流拠点として街にぎわっていました。現在、旧北上川では、かつてほどのにぎわいは見られませんが、十二万人市民への飲料水の供給や市民の憩いの場、また、夏の川開きなどのイベントの場として市民生活に密着して依然、愛され続けているのです。

私たち「ひたかみ水の里」は、この「水の都」石巻市の地域性を活かし、子供たちに遊びや体験を通して、水との親しみやふれあいを実感し、自然の大切さを認識していただくことを目的に様々な活動を行っています。今回はこの紙面をお借りして私たちの活動の一端をご紹介します。

私たちは、平成九年から一川の学校石巻倶楽部」として活動を開始してきましたが、平成十一年四月にNPO法人申請を行い「ひたかみ水の里」として活動を実施しています。活動の中心としては、建設省北上川下流工事事務所の御支援のもと、親子を対象とした「めだかつこクラブ」を開設し、カヌー遊び、魚とり体験、植物遊び、風と遊ぼうなどの様々な遊びを通して自然とのふれあいを深めるための活動を実施しております。また、北上川こども流





域交流会in北上町を白浜海岸で実施し、若手県と宮城県の小生(四年生以上)の野外体験交流会を実施しました。内容としては、カヌーやEポート、シジミとり体験や海水浴、魚釣り、キャンプなど二日間に渡って実施しました。ジュニアリーダーの応援をいただきましたが、すべてスタッフの手作りで事業を実施したので、苦勞の連続でしたが、参加者一四五名の子供たちの喜ぶ顔を見て、心の張り合いになりました。さらに、私たちの活動は、学校教育とも深く関わっています。石巻市の住吉小学校から総合学習授業として自然とのふれあい体験学習を応援していただけないかという依頼がありました。学校側とどんな授業を行うかを打ち合わせし、北上川でカヌーを使って川下り体験を実施することになりました。まず、安全性を確認するために、事前に調査し、ニクラス四三名を二回に分けて、救命胴衣を装着して実施しました。こ

の授業を通じて感じたことは、すこもり症候群やしじ待ち症候群と呼ばれる今の若い世代を無くすためには、今後は、学校教育の中で総合的学習が重要な役割を果たしていくことを確信しました。各学校が自由に教育内容を選択し、子供たちとの心のふれあいを尊重した授業を行えるようになってきたのです。これからは学校側のやる気や意気込みが児童・生徒の教育に大きく影響を与えることになるのです。

私たち「ひたかみ水の里」は地域や学校教育における環境教育の実践に少しでもお役に立ち、子供たちを育てていくことが、将来的には地域や地球の環境を守るための近道と信じています。お問い合わせ先

NPO法人「ひたかみ水の里」
住所 千九八六〇八一五
宮城県石巻市中里六丁目一―五
TEL 〇二二五―九六二―〇二六
FAX 〇二二五―九六二―〇〇六

読者の声

蒲生干潟を中心に国際的な機関(JEAN)のやり方で、海岸の漂着物やごみの調査をしているグループがあります。データーも揃っていて、活動事例としても非常に面白いグループです。

(名取市 団体職員 男性)

小生の家屋の周辺に小規模ながら小灌木林、雑草茫々の自然林を作っています。この設営動機は駐車場に囲まれているので、自動車排ガスによる空気清浄化対策の足しにしようとの発想からです。剪定枝葉も雑草も周辺に還元しており、庭の植物もリサイクルしています。

(仙台市 専門学校講師 男性)

酸性雨を防ぐということはきれいな空気を保つと同じ、健康の第一条件とのこと。本当にそう思います。私はモットーとして人にやさしく、人にやさしさをと思い、人々につきあっている。今度はこちらと大きく地球にやさしくしようと思っ

(仙台市 主婦)

我が家では台所の生ごみを少なくするため、極力乾燥してから指定日の朝に出します。ラップも使い捨てにせず使える限り何度も使用しています。空き缶も捨てずに料理や冷凍用に使っています。

(仙台市 会社員 男性)

紹介

○ダイオキシンの分析施設について

―宮城県保健環境センター特定化学物質検査棟―

ダイオキシン類については皆さん様々な形で情報を得、漠然とした不安を持っていると思われれます。この不安感はその実態が分からないことから生じるもので、宮城県ではそれを正確に把握し、正しい対応をするために専用の分析棟を建設しました。以下その概要を報告します。

ダイオキシン類は超微量で毒性を発揮するもので、人が一生摂取し続けても大丈夫な一日あたりの量は体重1キログラムあたり4ピコグラム（1ピコグラムは1兆分の1グラム）と言われていています。そのため分析施設はその危険性に十分対応出来る必要があります。基本的には、①ダイオキシン類は外部に出さない。②作業者がダイオキシン類に被曝しない。この二点が非常に重要なポイントとなります。これらの事項を達成するためには、従来の施設や設備では大変困難であったため、本県では平成十年度から十一年度にかけて、新たにダイオキシン類を専用分析する施設を保健環境センター敷地内に建設しました。その分析棟の概要は、前述の①を達成するために、各部屋の圧力を外部より低くし分析棟内の空気が直接外部に出ることを防いでいます。またダイオキシン類は粒子や活性炭に吸着し易い性質がありますので分析棟の空気はすべて、高性能フィルター（微粒子を取り除くフィルター）と活性炭フィルターを通し外部へ排気しています。分析室から出る水についても活性炭を通すようにしています。次に②については、分析室内



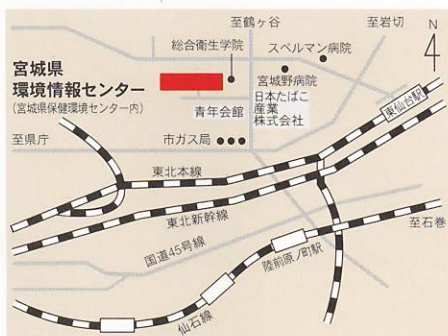
で試料側の圧力を作業側より低くし、作業者の背中から試料の方へ風が動くようにしています。また実験室内専用の白衣、手袋、履き物の着用を義務付け、定期的な健康診断の実施等、厳しい安全管理規程を定め作業者の健康を守るようにしています。ダイオキシン類は目に見えないものですし、一旦体内に取り込まれるとなかなか排泄されません。それだけにその管理は放射能並の厳重さが必要となります。

本検査棟の設立目的は「環境、人体を汚染しないで、正確なデータを出せる施設」であり、建物は平成十一年七月に完成しました。現在、平成十二年二月からのダイオキシン類の分析開始に向け施設、設備や分析条件等の最終点検作業を行っています。(S・S)

環境情報センターから

小学生が酸性雨学習のためセンターを見学しました

平成十一年十二月一日仙台市立西山小学校の六年生全員が酸性雨の勉強のために保健環境センターを訪れました。酸性雨に関するビデオを見た後、専門に研究している職員から酸性雨の話聞き、実際の測定装置やモニタリングシステムなど測定現場を間近に見学しました。子供達は普段体験出来ない現場での学習を通して、酸性雨に関する興味を深めていった様子でした。質問も多く出され中には職員も答えに窮するものもあり、改めて子供達の環境や科学に対する関心の高さに驚かされました。このような体験学習が子供達にとって、より一層環境問題に関心を持つきっかけとなれば幸いです。



〒983-0836
 仙台市宮城野区幸町4-7-2
 宮城県保健環境センター内
宮城県環境情報センター
 TEL 022(257)7184
 FAX 022(257)7194
 利用時間/月～金曜日、午前9時から午後4時まで
 休館日/土・日曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)
 交通/仙台市営バス 保健環境センター・たばこ工場前下車すぐ
 宮城県総合衛生学院隣り

南方町 平貝の清水

町民の憩いの場に

十二月上旬、木枯らしにさらされた周りの木々は、もうすっかり越冬に備えた様子に変わり、真新しい公園だけがひとときわ際だっておりました。公園の中央部には、砂利を敷き詰めた水路が通っており、この水路のみなもととなる湧水部分からは、水がしみだすように湧いており、透き通った水の流れが辺りの景観と調和し、一層清々しく感じられました。

南方町には昔から七つの清水と八つの沢があり、七清水八沢と語り伝えられてきましたが、その清水も開発などによりいつしか消滅してしまい、今では平貝地区に唯一残っている清水だけとなってしまいました。その清水も土砂が流れ込むなどして湧き出る量が年々減ってきているとのことでした。

平貝の清水は、昔から長命の泉、交流の泉として地域の人たちに親しまれてきており、干ばつの際にも一定の水量を保ち、地域の人々の貴重な飲み水になったと言われ

ています。

そこで南方町では、平成九・十年に環境庁の井戸・湧水復活再生事業の適用を受け、雨水浸透ますを設置するなど健全な水循環の確保を図りながら、環境学習の場として活用してもらえよう整備を行いました。また、清水の湧き出る場所を中心に、町民の憩いの場、交流の場として多くの人たちから親しまれるようサクラをはじめブナやカエデ等の植樹をするなど、四季を通じて楽しめる公園としての整備も行っています。

さらに、他町村の人たちにもこの景観を楽しんでもらえるよう周辺に駐車場を設けました。これらの周辺整備が一層すんだことから、町民の憩いの場所として、ますますの利用が期待されています。

連絡・お問い合わせ先

南方町商工観光課

電話 〇三二〇―五八―四二二一



交通案内

仙台市内から車で南方町平貝まで約1時間40分。
JR東北本線瀬峰駅からタクシーで約10分

電柱隊のつぶやきー古川市ー

東北大学大学院教授 近江 隆

この風景は、まるでわたしたち電柱が樹木にとってかわって並木をつくっているようだ。隣の商店街は、電柱を撤去して樹木やタイルの舗装によって、モールという美しい街並みをつくりだしている。わたしたちは美観のために場所を譲り渡したのだ。

昔は文明の象徴であった。光と熱と音を運んでくれる魔法の利器として、方々からお座敷がかかったものだ。そして今、人が自由に散策し、集い、楽しむために場所を譲るのは、しかたのないことである。

しかし、人は歩いているのだろうか。集い、そして楽しんでいるのだろうか。車のためではなく、人のために場所を明け渡したのだ。

並木はたくさんさんの豆電球で飾り立てられる。なぜ、わたしたちは光で飾られないのだろうか。並木はわたしたちより大事な役割を果たしているとも云うのだろうか。

冬の「けやき」の姿を惨めに思って豆電球で飾る人がいる。なぜ、わたしたちは飾られないのだろうか。わたしたちは重い変圧器を背負い、互いに結び合い、隊列を組む。わたしたちは人を威嚇する恐ろしい存在なのだろうか。



並木のように林立する電柱



着色された電柱



無電柱化したモール



アブクマトラノオ (たで科)
山元町 岩佐慶治さん画